

6 ほう作への いのり

(1) 昔^{むかし}からつたわる祭り^{まつ}



(美祢市秋芳町 別府巖島神社)

おじさんの話



カルスト高原^{こうげん}で有名な秋吉台^{あきよしだい}の北側^{きたがわ}に、わたしたちの美祢市秋芳町別府地区^{べっふいづくしまじんじや}があります。この地区に古くから伝わっている「別府ねんぶつ踊り^{おど}」は、田や毎日のくらしに使っている水にかんしゃし、作物^{さくもつ}のほう作をいのる祭りです。

踊りは、たいこの合図で始まり、たいこをたたきながら左右にとびはねる人や、動きに合わせてうちわをふる人などがはげしく動きまわります。

人数は、16人を1グループとして、2グループで踊ります。男ばかりで、小学生も踊りにさんかします。

美祢市秋芳町では、「民舞伝習館^{みんぶでんしゅうかん}」をつくっていつまでもこの踊りを伝えようといっしょうけんめいになっています。踊りは、たんじゅんで決してはではありませんが、わたしたちのせんぱいがわたしたちにのこしてくれたたからとして、美祢市では大切に守^{まも}って受けついでいます。

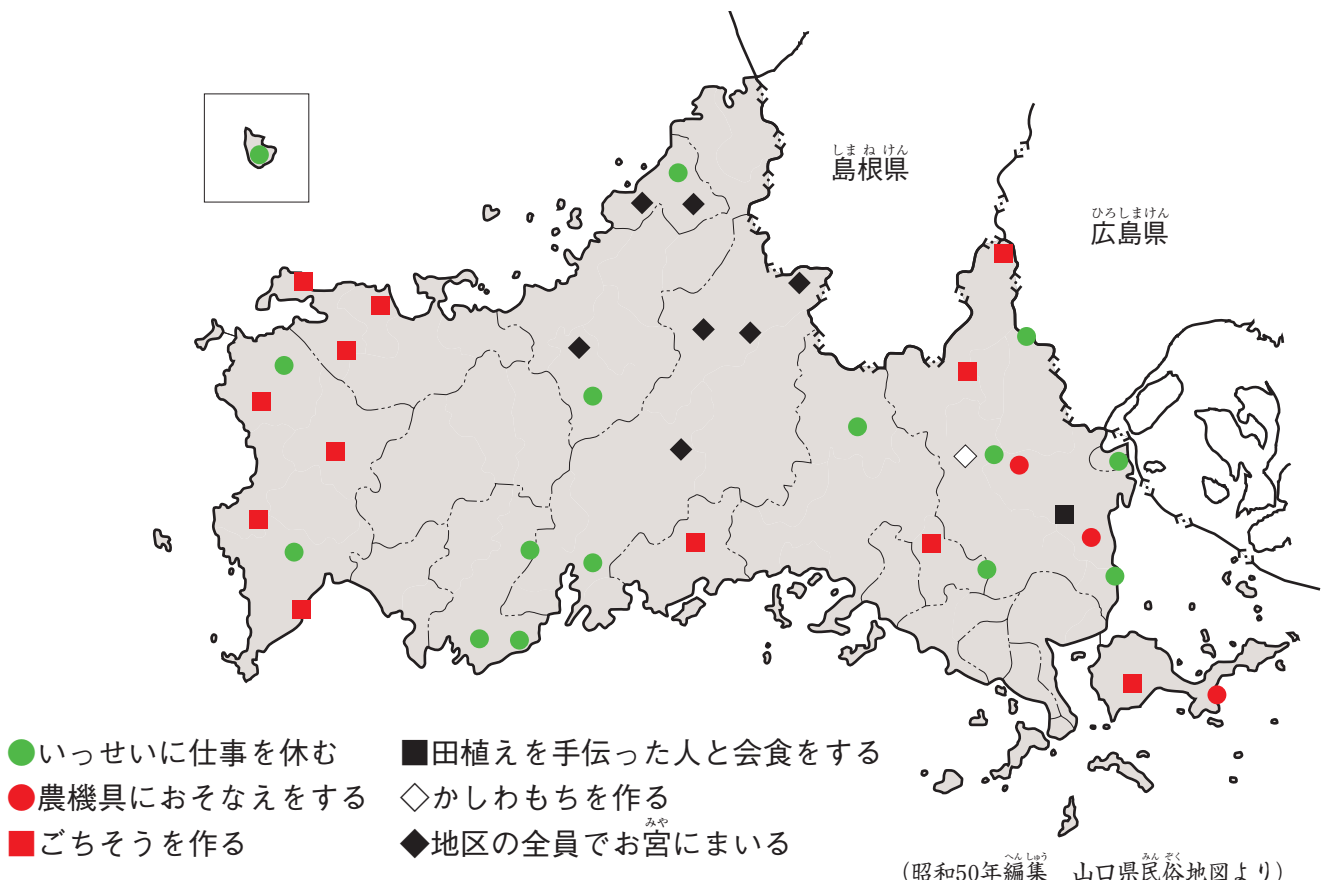
(2) 地区の行事「どろおとし」



ぼくたちが住んでいる地区には、田植えが終わった6月の中ごろの日曜日に「どろおとし」とよばれている行事があります。お父さんに聞くと、この行事は昔からつづいているそうで、田植えでつかれた体を休めたり、田植えを手伝ってもらった人にお礼のあいさつをしたり、農機具におそなえをしてほう作をいのったりする日だそうです。

どの家も、この日はいっせいに農作業を休んでごちそうを作り、近所の人たちと楽しくすごします。ぼくは、この日がとても楽しみです。ぼくの大きな「かしわもち」が作られるからです。かしわもちとは、さるとりいばらの葉を山からとってきて、米のこなをねってあんこを入れてつつみ、むしたものです。「どろおとし」がすむと暑い夏がやってきます。

山口県で「どろおとし」が行われているところ



(3) 山口県の各地に見られる農業祭り



① お田植え祭 (下関市一の宮 住吉神社)

毎年、5月の第3日曜日に行われる。34人の早乙女たちが神田に田植えをしたり、あぜ道で曲に合わせて踊ったりします。すげかさをかぶり、白衣と赤い着物を着た早乙女たちのすがたはおっとりして美しい祭りです。



③ 祖生の柱松

(岩国市周東町)

周東町の夏の盆行事として、行われているこの火祭は、およそ300年前にききんでなくなった、たくさんの人々のたましいをなぐさめるとともに、豊作をいのるために始められました。高さが10mもある胴木とよばれる上に組まれた朝顔型の中の木々に向けて、松明をいきおいよく投げ上げ、やがて夜空をこがすほどに明々と柱松が燃え始めると太鼓が鳴らされ祭りは最高潮になります。



② 高倉荒神祭

(山口市平川 高倉荒神社)

2月28日といえば昔から高倉荒神社の祭りと言われるほど農家にとってなじみ深く「おためし」とよばれるうらないが行われ、これによって雨のりょう、天気、米の取れ高を予想し、農家の人びとは米づくりの仕事に取りかかります。神社の境内では、なえ木やたね、農機具などを売る店が立ちならび農業の神様にふさわしい祭りです。



きらら物産・交流フェア

(山口市阿知須)



④ 式内踊り (周南市大向 二俣神社)

5年または7年に1回、8月31日に行われます。踊りは男ばかりの12人が太鼓・ふえ・かね・ひょうし木のおはやしに合わせて力強く踊ります。稲の病害虫の発生をなくし、ゆたかなくらしをいのる祭りです。



⑤ 滝坂の神楽舞 (長門市三隅 黄幡社)

およそ240年前から伝えられている踊りは、黄幡社の境内で11月2日の祭りの夜から3日朝まで一晩中続きます。踊りは、全部で24種類で、手を振り、足を上げて、体をくるくる回すすがたはとても力強さを感じます。豊作をいのり、牛や馬が病気にかからないように願いをこめた踊りとして今もしっかり受けつがれています。



⑥ なむでん踊り (周防大島町久賀 久屋寺)

およそ200年も続いている祭りで、毎年7月に子どもたちの手で行われます。田植えの終わりをいわうとともに、稲に病害虫がつかないことをいのって、わら人形をふりながら、かねや太鼓に合わせて踊ります。ほら貝の音や、ぼうをうちつける音がまち全体にひろがるころに、祭りは最高にもり上がります。